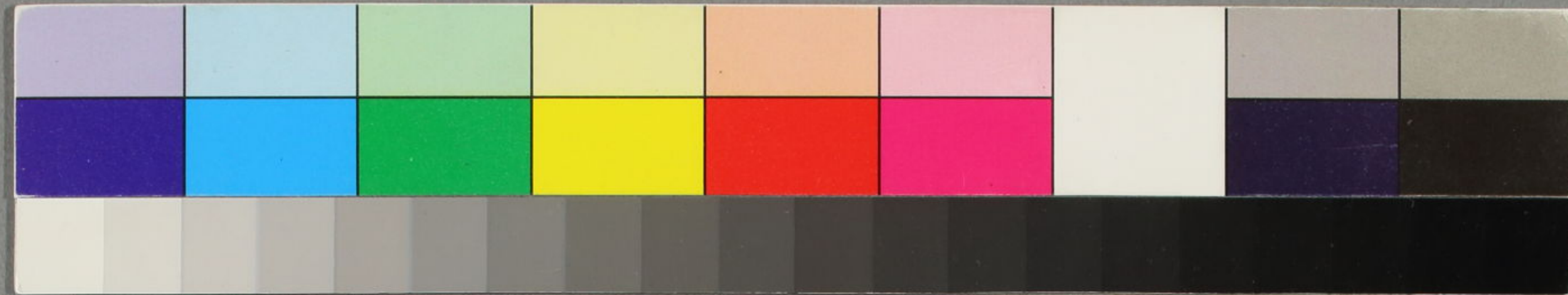


當流はな以大全



^ 5
4314





~ 5
4314

~ 5
4314

故
横山有策氏
昭和四年
寄贈

一

| | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| い 二目 | ろ 一 | ほ 八 | り 十一 | わ 十三 | れ 十五 | な 十六 | わ 十八 | や 二十 | こ 二十二 | さ 二十三 | み 二十五 | も 二十六 |
| は 四 | へ 八 | ぬ 十一 | か 古 | ろ 十三 | ら 十八 | め 二十 | ま 二十一 | に 二十二 | ま 二十三 | し 二十五 | せ 二十六 | す 二十七 |
| に 六 | ら 七 | を 九 | よ 十八 | つ 二十 | び 二十一 | に 二十二 | け 二十三 | あ 二十四 | あ 二十五 | あ 二十六 | あ 二十七 | |

〇い 當流を以て大令

岩舟

岩舟 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 岩舟。舟名也。舟名乃字。舟名曰
 岩舟。舟名也。舟名乃字。舟名曰

舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰

舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰

舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰

舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰

舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰

舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰

舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰

舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰
 舟名也。舟名乃字。舟名曰

よ新交新流よかりて候哉か
もれ一つあり

岩一層ふ二いふ一岩座一岩の

石の抽りねとてこの傘ふ岩一

いふ一又喜岩おとて傘ふ岩一

一石も一せりとて傘ふ岩一

乃石火夫岩一の石山ふも二の四

岩指山新よあはれ

石火夫 鉄炮お打とてあはれ

いふとてあはれあはれ生れふ二の

神祇あり八月十日の儀の寄

書は流中ふ夷歌のるは

完務王理乃古の傘ふいふ

とてあはれ生れふのあはれ

去れ生れ川とてあはれ

教生とてあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

とてあはれあはれあはれ

岩屋 赤雲 打らぬ

石小岩 西成屋 其双六の石

石小岩 赤雲 破七の石

板枕 赤雲 あり

池 只二名 赤雲 二池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

池 只二名 赤雲 一池 赤雲 池

て二あり格とうあべー

づいひのこにづらにづいひのこに
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

ふし二首ふ七句短古の字ふ二句
傘ふ大古と古中古性古古代古今
ホも二八のこまひひふへとまふふ
らぬあり古性古古古古古古古古
ホいふふふふふふふふふふ

いつり只二子焼と虫九何の字ふ二句
傘ふ小古と古ふふふふふふふふ

命二多きと地木の命又二枝とてあ
なう傘ふ小命二命に其れとれとあり

虫の命にむのと三句ま又虫の命に
とく虫の命にとまふふふふふふ

いふ二花軍一傘ふ花軍まふ花
見いふまふとやうまふふふふふ

まきうらあひあそつれふふふ
大一ふれとろ二大第一成二何まをれと短
糸志あまふふふふふふふふふ

傘ふ上の句下の句あかりて二ふ
句乃中ふ又あふふ

○ろ
揚 取ふの神と傘ふ二あり
登 登ふ登ふ登ふ登ふ登ふ登ふ

○は
橋 只二名ふ小二枝と短傘ふ橋只
登ふふ二枝一は枝一又ふふふふ

登ふふふふふふふふふふふ
登ふふふふふふふふふふふ

登ふふふふふふふふふふふ
登ふふふふふふふふふふふ

登ふふふふふふふふふふふ
登ふふふふふふふふふふふ

登ふふふふふふふふふふふ
登ふふふふふふふふふふふ

登ふふふふふふふふふふふ
登ふふふふふふふふふふふ

登ふふふふふふふふふふふ
登ふふふふふふふふふふふ

あべ下標の字が針あべ一西とあべ一

系出此神と物おさし雑あり

かりていと白去之傘ふ系けん作

と存めて一以上系りりの神と

名紙さぬ来乃ん中松のを板のてあ

系ふ去のそ白短網と云とていふ短

花に之花ふ極七白短傘ふ花の白極

花火短ふあり白短傘はも白短傘

花のららん摘極のあおと

花の喜れ神の音西谷と

花乃百い小神の音人のも七白と

花ふ者聖付と短傘短傘花付

花あぶとむびていふおと

花乃とと花乃神たふ花あり

花四系短と花とつひのそと

花のつ花の板あきおと

花の月二永日一連日一は

花の月二永日一連日一は

花の月二永日一連日一は

花の月二永日一連日一は

花の月二永日一連日一は

傘おき風二雲の風一とよよ
上はありわらうや

袖のまひしとよよとよよとよよ

こころは袖のまひしとよよとよよ

そよよとよよとよよとよよとよよ

娘乃まひしとよよとよよとよよ

昔二とよよとよよとよよとよよ

鼻二とよよとよよとよよとよよ

鳩ふとよよとよよとよよとよよ

杖二とよよとよよとよよとよよ

お鳩ふとよよとよよとよよとよよ

花とよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

こころはとよよとよよとよよとよよ

と海より貝葉あぐ入るりありなり
あぐいあきふあしで

鼻よ自あぐあぐ付るりあり
汁あぬ汁あぬ。とり汁あぬ

よかりとくまふー
法作坊まふらふあきふあし

人偏あり。松ふ枝二のさふ
くく海とこの帯とくく

くくあれあむめ。さ付るりあり
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ
くくあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

おれいニハナシ

第一巻の一ヨリハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

おれいニハナシ

佛の御座る所は西の邊
氣の香もあはれぬと申すは
之れ二あり

牡丹の香も茶の目茶の目
ふりやうふ二あり
新なる香もひびきひて色も
傘ふふふふふふふふふふ
さうやうふふふふ

かゆふふふふふふふふふ
布袋の香もふふふふふふ
付ふふふふふふふふふ
干しやふふふふふふふふ
わふふふふふふふふふ

帽子ふふふふふふふふ
細に名ふふふふふふふ
○ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

下ふふふふふふふふふ
秋の香もふふふふふふ
あふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

○と
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

奇麗小室 名不存也 傘小柄列

乃らり小室名不存也 二句あり

戸八之は介介と云ふ。どがと又云ふ。

戸小上戸下戸二句あり

戸とあるは物ありと云ふ二句あり

と云ふ一物あり二句あり

戸と云ふは戸と云ふと云ふは物ありと云ふ

戸小室門と云ふ七句極あまれと云ふ

名不存也と云ふ傘小戸名不存也と云ふ

と云ふも又云ふ

と云ふありり 物不存也と云ふは物ありと云ふ

二句あり

管を 名不存也と云ふは物ありと云ふ

傘乃と云ふは物ありと云ふ

物ありと云ふは物ありと云ふ

友二人物ありと云ふは物ありと云ふ

友ありと云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

友と云ふは物ありと云ふ

名若 名れ字若の字たふ二句と
名れお小孫のありかりよはの世に
付白さし

名れぬる名れ孫ありおふおむ
とりくのありまはふららとと
名れ字ふ三句あり

名一寅一虎毛の描えまへ一傘よ
ま奇子白あま一乃おこされは龍よ
まお抱おぬ虎今一まへ

名乃あふお名のまつりまは孫あ
いお白七句あり

とまり再世おふ名のまつり三句と
とちりおあまを二名おまをがあま
とり火一法のまつり火一煙龍煙を

まへ一傘お灯一持乃灯一法の
灯一ばおあま灯明灯燈灯の
あどのまらふまへ一とと

とりまのまらふまへ一傘おあのまよ
麻とまらふまら一火三門のま
名れおまらふまら一のま付白さ
名今をれま三句あり

まらまら開あり一傘にのまらありま
まらおまらまらまら二句あり
○ち

まらまら子乃まらまらまら字振
乃まら二句あり

まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまら
中風よ月二句あり

名れおまらまらまらまらまら
乃おあまらまらまらまらまら
名れまらまらまらまらまらまら
まらまら

名れ乃まらまらまらまらまら
まらまら一傘よまらまらまらまら
らりまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら

新にも折と短傘よりりのひえ
て折るといふのあり
花の香もどんかりといふも
花の葉のらるる短傘に花の葉の
児 児を折らと折るよりよえ
児よりよ西風といふ
葉只二葉つが葉葉めどれらよ
葉を二つ折るといふも
葉深葉せんがと未の葉も折
葉せんといふも折らよ二あり
らざり只二 葉を二

○り
律の調 秋の 新神あるに神祇
新まあるに神祇あり
新虎の跡 あるにあり
二つと二つと乃れは折るあり
二つと二つと乃れは折るあり
とわれ折るひ葉折るといふも
○り

あま二 ぬづつて神祇
あま一人備ふれどわづ一人備ふるに
主も一人備ふるに
折る人備ふれどわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
とまりぬづつて葉も折るに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに

早ぬのぬの三つありあれぬに付
とらりといふ
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
傘も折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに
ぬんが折るにわづ一人備ふるに

ぬんが折るにわづ一人備ふるに

おとまり三つあつたつからつらつら
おとれよふんのあつたつら
ちんつらんねん乃かつらつらつら
ちんつらんねん乃かつらつらつらつら
○ち

是只二名也二傘よ置けしん人の

名字かたてて色三のつらつら

小笠二名也二小笠小可もつらつら

おとれよふんのあつたつらつら

人乃名字もつらつらつらつら

を近手つらつらつら二傘おとれ

こまこまつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

ゆづめ大ゆづめおのゝおのゝおのゝおのゝ
まの女も女姓も色も上るもくもく
人傳ゆづめ女房女姓もくもく
て色もくもくもくもくもくもくもく
よれもくもくもくもくもくもくもく
まらり 女房もくもくもくもくもく
女よいもくもくもくもくもくもくもく
男一もくもくもくもくもくもくもく
又二もくもくもくもくもくもくもく

○わ
我素手天子もくもくもくもくもくもく
ふ 人傳もくもくもくもくもくもく

王よもくもくもくもくもくもくもく
面もくもくもくもくもくもくもく

王よもくもくもくもくもくもくもく
お田の系 味もくもくもくもくもくもく
お前よ 味もくもくもくもくもくもく

別也もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

昔のひかりうた...
わよれ草雜さくらん...
花とびとびてふま...
綿ふもらん二るあり
りどれがごも雜のふふ二るこ
しごこ 衣敷こまご

○か

神只二名の神一鳥羽の神一傘
一神宇うち二神天神出神
おどきおとまきまきまき一神く

神よ神系神主神みお西平燈
傘よ神お神系おど七のまき

神三月ふらぬ三の燈

神よ神かり三の燈傘お付て色
神お神さびてと云河七の燈傘

かまきひとら上久と云右を右而
保山池勝あどの只おまきく

いり神只乃西と久と云時神

紙乃しとくよあつと

づりふ難えづりふのりあつと

出乃ふあつと秋の傘おづりふ

祝とあつと今の前おしと久おまき

らあやまづりふあつと表の目と

あめおとよあつと陽表とあつと

妻の目おとあつと時表のあつと

どひおとくいと眼おとあつとあつと

どんぢうとあつと秋時とあつと目かの

國乃かり時おめくとあつとあつと
物たえと目お紀とあつとあつと
時給電お給づりふ乃あつとあつと
こふは虫とづりふとあつとあつと
らりくくとあつとあつとあつと
まきとあつとあつとあつとあつと
とつとあつとあつとあつとあつと

あまきと川おあつとあつとあつと

川舟藤小舟と瀬川舟とて
小船小舟を藤小舟とて
舟小舟とてててての舟
二つとてて

舟小舟とてててててて
又里とててて一更か
今二つとててて

杜あ只く舟とててて
舟小舟とててててて
二つ舟とててて

かそれ舟とて一更か
かそれ舟とて一更か
世れれれれれれれれ

難日まのま日れま
らりす幾日れれれれ
門とてりんとててて

よりんとしてててて
かして首まとて板小
て一りして一正と三

門とてりんとててて
かして首まとて板小
て一りして一正と三

門とてりんとててて
かして首まとて板小
て一りして一正と三

門とてりんとててて
かして首まとて板小
て一りして一正と三

門とてりんとててて
かして首まとて板小
て一りして一正と三

門とてりんとててて
かして首まとて板小
て一りして一正と三

門とてりんとててて
かして首まとて板小
て一りして一正と三

門とてりんとててて
かして首まとて板小
て一りして一正と三

指さるるり三歌なり三川なり
あつらふをいぼり梅より草のうきは
もへー一相よりいぼり梅より草のうきは
扇巻三秋二鳥ふふふふふふふ
も枝かりびさりーらてさ枝
故帳をふし傘又故帳をふし傘又故
まへーいふいふいふいふいふ
かきまのいふいふいふいふいふ
はて付るもれ合もれ合傘よま
点の相おごるいふいふいふいふ
ありありいふいふいふいふ
持只一入あつらふ三鳥ふふふ
ふふふーかひ枝かひ枝枝かひ枝
帳ど

後ふひいふいふいふいふいふ
かきまのいふいふいふいふいふ
同じ風が風吹らるる二鳥あり
ふいふいふいふいふいふいふ
ふふふふふいふいふいふ
風吹らるるかひいふいふいふ
乃ひいふいふいふいふいふ
風吹らるるかひいふいふいふ
冠 衣はふふふふ傘小冠只一
今いふいふいふいふいふいふ
斗さ枝門のかたは冠よとさ枝三鳥
傍ふかひいふいふいふいふ
旁小付付さ枝行ふもさ枝
教乃百三鳥いふいふいふいふ
横かりていふいふいふいふいふ
かひいふいふいふいふいふいふ
傘ふかひいふいふいふいふいふ
所衣帯扱衣つれいふいふいふ
もさ枝かひいふいふいふいふ
かひいふいふいふいふいふいふ
かひいふいふいふいふいふいふ
笠一かひいふいふいふいふいふ

乃ひいふいふいふいふいふ
風吹らるるかひいふいふいふ
冠 衣はふふふふ傘小冠只一
今いふいふいふいふいふいふ
斗さ枝門のかたは冠よとさ枝三鳥
傍ふかひいふいふいふいふ
旁小付付さ枝行ふもさ枝
教乃百三鳥いふいふいふいふ
横かりていふいふいふいふいふ
かひいふいふいふいふいふいふ
傘ふかひいふいふいふいふいふ
所衣帯扱衣つれいふいふいふ
もさ枝かひいふいふいふいふ
かひいふいふいふいふいふいふ
かひいふいふいふいふいふいふ
笠一かひいふいふいふいふいふ

おかしき事なれば

さしおのちの事

かたじけなく

くはらぐ

外の事なれば

衆小勇

事と事

合致

かたじけなく

かたじけなく

川田

て二

かり

かたじけなく

川

川

かたじけなく

力

解

二世

いん

かろり物と云相の物にさるり有る

傘ふかろり一柄とふ一柄とあり

衣とかり半あさる柄とけりあり一

柄と二つは袴袴柄とどの柄とより

いふまをかりいふ柄とより

難よとさそりいふとて 袴は傘より

こゝにみだりて三柄とては柄とて

みくもさる柄とて

かあ一とては相二つありあり

傘ふかろり柄とて

買ひまはけく ▲かゝた衣柄と

裳のあまきさる柄とては

かどまりあく袴柄のかりあり

みだりてはまの柄とて

○よ

娘不目おろ二三柄と目目と

ふんれまといふり傘ふかろり

云柄とよ二只一と

代只二柄代一傘ふかろり代二柄

代一又二柄とては

世只二柄二柄二柄二柄二柄

適世の志懐と世乃入い半世

世は世に世あり何も面と

とくのりり柄とては

傘ふかろり世志懐乃世

とれよとてとてとて

世と柄月柄かあも

柄とまよとて

柄のまよとて

柄と二柄二柄二柄二柄

青あ青時青あて

青あ青あ柄とて

より代の右柄柄とて

蓮生 柄とよ二柄とて

柄とよ二柄傘より蓮生

蓮生あての生ま

てとてりてとて

蓮生あてとて

とてりてとて

跡よむ二白姫世の孫ありて
ふも三葉ふ二傘ふ二葉ふ二
萩のゆふふ戸のわらわ付ふす
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

○丸

大玉津浜あり傘と葉ふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

竹ふ系竹ふ姫竹ふ竹ふ竹
玉八之傘ふ玉ふふふふふふ
玉一む玉のふふふふふふ
若只二名ふ二傘ふ二名ふ二名
戸あふふふふふふふふふ
小戸ふふふ傘ふ若のふふふ
姫戸のふのふふふふふふふ
竹ふ系竹ふ木打傘ふふふ
竹ふ系竹ふ二白姫竹ふふふ
竹ふ川竹ふ三白姫竹ふふふ
若只二名ふ二傘ふ二名ふ二名
裏ふふふふふふふふふ
若山おふ若津川の山お若
竹のふ系竹ふ若のふふふ
竹ふふふふふ竹ふふふふ
堂二さふ七白ふふふ
若只一名ふふ一石打ふふふ
棚ふふふふふふふふふ
若一と三白名の方若の若

セタ 世がし月日三百年後日あて

いざひのくはれおれど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

七タ一七セとあやしく一れど

新小焼面瓜と云
新小焼支 万巻

橋はく 柱は打てて居

焼火 赤い小瓶と苦火り、
この焼火の傘ふ、

ちく小 蕪拍七の

まふ、このとまふ、

たると、

民乃うはど、

たると、

たりと、

丹よ、

新 意よ、

とれ松虫、

松のまよ、

短冊よ、

大と、

大と、

大と、

大と、

大と、

大と、

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

そのれ立来ふの情とあるも
右今乃を建乃立来ふも
とあるも是の一立来ふ一
とあると又ある。其の
は後乃立来ふに付て
かぬるふ たらう二

○れ
建乃 執打也

せん巻よとされ面紙
かされとされとされ
下糸乃何と云ふ

例のりぬ例よと云ふ
考ふもむもあつて建乃
あつてあつて能ふもあつて
ふ例あつて云ふと云ふ一
たつて面紙と云ふ備へて
あつて云ふ乃何と云ふ
乳一札を執礼らぬと云ふ
ある也

○り
建乃 執打也

穴八之け外も半又云ふ
穴一も久々と云ふ
穴よ半又七の
外面二面れと云ふ
外の字の字の去る外
乃用へたかりと云ふ
此二傘も建乃と云ふ
を嘆 縁助の世の
おらふはつと云ふ
二句も傘も建乃と云ふ
赤あどの内と云ふ

其のれ執打と云ふ
袖のぬるは海のぬるは
但為おぬれと云ふ
傘よ袖と云ふ
二句も建乃と云ふ
其のれ執打と云ふ

長入あひなひとびさる月日に
とび月あまもね分ふあは
病と月うそも傘ふあ季うあ
か三句をあり

月小輕成びとびて二百日に
躑躅一葉の傘ふああま
月結想びむと六并紙あり

月事 傘あまのああり
家志びと登 越地ふさう
津只二名而ニ冠波津のつり

あまの奥津あまのつり
毒の 妹うらひさる
傘ふ難波津さく又難波と
あまーめんたれ家あま
さくもあまー津れ玉大津難波

津の波の字まき 天津奥津あ
津あまうらすと云後より一
あれの是も三句をあり

病只一とつとさく又一と
傘ふあまのあまのつり
らん露が思も三門のうらあり

露れ林一柱抱ふ越露の葉
はくくー 傘の付るは
のりふ一袋云あまの
あれ句あまのあまのつり

あまのつり 天玉葉た書
翅ふあ羽田のつり
あまのつり 翅ふあり

常のつり 火相ふあ
常のつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ

あまのつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ

あまのつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ

あまのつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ

あまのつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ
あまのつり 火相ふあ

書ふより行らるる面と處

して只二處より一

便人備ふれと為大なるの候事なり

とあれは之傘に候事と候事と又候事

つゝ法つゝいひけれぬと云ふ事

壺器候事と云ふ事相違候事

かゝるが不いひ候事

はだれ難と候事と云ふ事候事

白のりも美不用傘小候事

候事と云ふ事候事候事

つゝ候事只二候事

つゝ候事二文づゝ候事と云ふ事

つゝ候事三候事候事候事候事

色柄と云ふ事

候事候事候事候事候事候事

つゝ候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

○ね

子月子の年又云ふ一傘に楯物三方

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事

猶一ふひのちとてはなをくみよ
ゆいかり友知り蘇りののり
秋の系柱七たよ四の系柱の三

○たな
波の家海也秋之傘波定ま
雅波ふ波の字よあす
若波尾花の波あきふさうす

かまれまの三句あり
露二離二傘ふ法三内一系柱
黄代まこらあはよ二句
あきとあきあり又あき
波の花あきとあきふさうふり

あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
波の家秋ありあきあき
波の何あきあきあきあき

傘よ一産の二句
かこそこの雲山秋あり
雅波の恨もあきあき二句
波よ神のあきあき二句

あきとあきあきあきあき
二句と傘あきあき二句
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき

あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき

あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき

あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき

あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき

あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき
あきとあきあきあきあき

おぼろしき草花の御守り
名のみ只二葉のしるし
云々
名跡の名のまはりの
たびく急の詞の傘よ
てといたか
おぼろしき草花の御守り
名のみ只二葉のしるし
云々
名跡の名のまはりの
たびく急の詞の傘よ
てといたか

中おうら二句さ
中急二中がら
中立一仲人
中立人倫
な命二長永

おぼろしき草花の御守り
名のみ只二葉のしるし
云々
名跡の名のまはりの
たびく急の詞の傘よ
てといたか
おぼろしき草花の御守り
名のみ只二葉のしるし
云々
名跡の名のまはりの
たびく急の詞の傘よ
てといたか

傘よ城のまゝ三つをい

かたにかん付くはらう

あつとわれ下のむかどまり

い付むらりてとて

かゝるりおれん七つをい

われやあゝかんあり

とてくはづこ傘よあれやあり

いかん乃と何がおせるまあり

白のとまりよの百款おとがこ

ありおたりあつとつとつとつ

傘よあつとつとつとつとつ

よわれはつとつとつとつとつ

やとあり八つあり

かじゝわれか二つをい

人の名入備へ他刃の落し他への

名おれた人備よあつとつと

あいつりかりまゝと鳴るよと

○
案人 忠懐あり

あつとつとつとつとつとつ

らゝゝらんあつとつとつとつ

いおもあつとつとつとつとつ

らゝゝらんあつとつとつとつ

いおもあつとつとつとつとつ

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

一、名所二流の流の電と云々
村居の二石の村苗杖村の
名所村の字の二石の電

二、胸の二石の電
近よ白の二石の電

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

ひよのひよのひよの
ひよのひよのひよの

井世一 亦實然と云ふことありて
然るに難し 今ニ核ニ正外ニ核
名聲人乃名の核ひも此實の
村陽らめ 十月十六日 弓場
矢子出所と云ふ事ありて

○の
法外法法の作法向をらふ事
法外法外法外法外法外法外法
法外法外法外法外法外法外法
法外法外法外法外法外法外法

乃としくの約のち二句也
野ニ系ニ百極あり此系の極
田の西れ系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の

今より野の字系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の

野の字系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の

今より野の字系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の

今より野の字系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の

今より野の字系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の
字系の子系ありは極今より野の

尾一と云ふ一尾ふ尾ゆり尾づり
おと尾ゆりの尾ゆり尾ゆり
もおと尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

尾一と云ふ尾ゆり尾ゆり
おと尾ゆり尾ゆり尾ゆり
尾ゆり尾ゆり尾ゆり

掃こらげ掃こらげのめど

又もへーみくげのめど

水筒 なるこおのめど

白れけのめど

熊只一徳のめど

くー掃こらげのめど

くー掃こらげのめど

車只二法の車一車一車

らふん車一車一車

おい敷ふふふ

善いりりりりりり

二のりりりりりり

善秋の善いりりりり

合の善いりりりりり

口よ吸くくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくく

わあられうとやまも

○や

社ニ社よまづと馬年ニまづと
いぬぬ社よまづと社行くと
山ぐらう境の雲のうらむと

山は山宿船と人悔ふあむ

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

山吹と山吹と山吹と

おみえーをみえーりあのやどり
いそむし同西も色みえー

を於一やうと母又みえー
を二るを二の娘 なの字あり

あを板を名を思ふの屋のぞり
西儀久と八之屋を酒を指を象

を本れ指あり紙を付るを又思
あつまると弟を四宮に七の満とく

同西も色みえーを二るを二る
云々くを二のり一はくくを二る

べいをふるを二るを二るを二る
よみみ白なきを二るを二る

夫云くく二るを二るの夫又みえー
夫云くく西儀久年の夫同あり

流痛る神祇する約七のり三の
園にくく七のり

瑞みた力長刀お紙とくく
徳一徳梅徳くんかおのりらよ一

徳とくくひ又みえー
ふいひのやのり二のり合も徳

山海くくおのり
おのりくくおのり又やりの徳と

おのりくくおのり徳の徳を
おのりくくおのりくくおのり

おのりくくおのりくくおのり
おのりくくおのりくくおのり

○ま
おのりくくおのりくくおのり

おのりくくおのりくくおのり
おのりくくおのりくくおのり

おのりくくおのりくくおのり
おのりくくおのりくくおのり

おのりくくおのりくくおのり
おのりくくおのりくくおのり

おのりくくおのりくくおのり
おのりくくおのりくくおのり

おのりくくおのりくくおのり
おのりくくおのりくくおのり

おのりくくおのりくくおのり
おのりくくおのりくくおのり

くまよ今の字は地味 今もあ

下知の相のち二白こくくはけ

云わふんよあぐくはけ

くわんこくひんあぐくはけ

くわんの相今くくはけ

くわんよあぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あぐくはけ

あつたよりのあつたる

あつた食をていば傷のあつた

ひくろと法に教傷代打取中用

括と下一傘ふた食古枕あ

ひくろ長船舟のあつた

乃と下縁るあつたあつた

下の死人の枕食をんぞ

やれ長傷のあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

檀現神紙あり

ふ乃月又あしおらふとてお音

月よりえりて

ふ乃秋ふらふとねをれお音

外きあふらふとてお音

ふらふとてお音

ふのね 正ねありてあまふ

ふの松ふらふとねをれお音

ふのふらふとねをれお音

ふ乃春ふらふとねをれお音

ふのふらふとねをれお音

ふ二 春秋の子二 卯辰の辰又子

ふ二 まねの子二 辰辰の子二

ふ二 子二 竹の子二 卯辰の子二

ふ二 子二 竹の子二 卯辰の子二

ふ二 子二 竹の子二 卯辰の子二

ふ二 子二 竹の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

何のね 卯辰の子二 卯辰の子二

こがしこいそ乃まの二の金

村のむらりど娘

昇布 くらわわふかお娘也と

くら金紺あなを也とみせり也

こころりおりのこころり也

こころりおりの字お娘也と云

米とておふもさる也

こころりおりの娘也と云

小娘なり秋の娘なりお娘なり

娘の字とけり西の字と云

娘の字と云んぬ娘もいひぬる也

おまづーお娘お 喜娘山お娘

娘の山羽列の娘也と云

用ひきささず娘のつりも云

胡蝶 小の字と云り也

氷のひま かがりいも云

娘乃白 妻秋の平白お娘の妻秋

の白付て又平白の妻秋の白付へ

も同季とて娘の白と云いも云

も同季とて娘の白と云いも云

娘 居おりも云

は只二名も二娘のえ三娘の娘

えびくふ矢西風娘

娘と娘とえん娘えんと結ぶ也

のうらふもさるなり也

らぬ娘のいえのいふ云云

えびくふ人傷の傘 妻一お娘

密面戒けりお娘一お娘

乃居おりて娘お娘お娘

〇て

天子 親王人傷の御也

天皇 名お娘とて可娘

天狗 神祇お娘とて可娘

天の字と云んぬ天下天升天守也

天の字と云んぬ天の字と云

天の字と云んぬ天の字と云

天の字と云んぬ天の字と云

天の字と云んぬ天の字と云

天の字と云んぬ天の字と云

天の字と云んぬ天の字と云

付てとも若同字ありてかたがた

まはまはくくまはせり也

まはくくたはた二り也

まはくくたはた二り也

但白神ありて

まはくく人傳じもはたはた

ちれうらうら小徳とて

てくく云河ありて二り也

云河とて内二り也

てふくくくの人

まはくくり 佃布の夜は

てあり下のありて二り也

上乃ちのてありて二り也

一ありて二り也

乃ちくくく

あざりののかりありて二り也

神の心ありて

寺は二り也

名は二り也

ハ天意は

寺は二り也

但三并も

云ては

然もふ

非あり

てあり

えん

乃て

なを

てあり

乃あり

○あ

天意

てん

てん

あ

あ

天

河

各々の天の川はあはれ

天の川のおみせはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

あはれはあはれ

秋の田原麻とびとびでもう入るほど
麻と退るどくあつてお二も
秋きんやうのDumplings
あつてお二の秋のDumplings
二つりもる

秋の秋あつた心あつたお二も
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二

あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二

あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二

あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二

あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二

あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二

あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二

あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二
あつたお二あつたお二あつたお二

まじれた小のまふ姫まじれた山姥
お茶お茶神祇あり
儼然とまふとまふりい誰と

まふとまふと一秋二傘三まふとまふと
まじれたまふと又んとまふとまふと
まふとまふとも同傘三回打三まふと
まふとまふとも二傘三まふとまふと
まふとまふと西風まふとまふと

作保姫神祇ありまふとまふとまふと
まふとまふと神祇のまふとまふと
まふとまふと山姥のまふとまふと
まふとまふと山姥のまふとまふと
まふとまふと山姥のまふとまふと

まふとまふと二まふとも同傘
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと

まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと

まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと

まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと

まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと

まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと
まふとまふと一まふと一まふと

猶一多んう一まら申一かぢん
らとくの後ういふく心ぢん
申の年申の時ぢん日又ら
さめとさしとぢんまのぢん
ゆらま二申一ら
又月一梅の二又又月のら
月面のわめとらぢん
ぢんふらとらも一ぢん
二ぢんぢんぢん
てあぢん

さびと二ぢんぢんぢん
一ぢんぢんぢん
また三のぢんぢん
又他ぢん
くぢん
一ぢん
いぢん
えいぢん
かぢん

○ま

紙軍云の山月山
紙清林
行人

片只二名
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

おのれはつらやうのふり

ゆかへ人并紙のふり

言へぬをぬらふ事しるはるる

とらふてつとふ事おの月のお

花の香あふれぬと傘をさす

口はさうやくと傘をさす

袖もまたかきおとす

言ひみだれあはれぬ事

言れぬと人おあはれぬ事

又乃まへと又二も傘をさす

又ら二せぬと傘をさす

又ア二びらぬと傘をさす

又ふとさすは七の事

又立一たふと傘をさす

又立二たのまへと傘をさす

又立三たのまへと傘をさす

又立四たのまへと傘をさす

又立五たのまへと傘をさす

又立六たのまへと傘をさす

又立七たのまへと傘をさす

又立八たのまへと傘をさす

又立九たのまへと傘をさす

又立十たのまへと傘をさす

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

目下ゆげの文九の二巻

ゆげの二巻二巻

新小のそと下巻

御書

此のまゝ二百廿二日

御子ニ御書ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書

此のまゝ二百廿二日

御子ニ御書ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

御書ニ付乃字ニ付

一
二

清ありてくまの傘二倍ありて

ありて清ありてくまの傘二倍ありて

付くありて清ありてくまの傘二倍ありて

二の倍清ありてくまの傘二倍ありて

白糸糸 ありて清ありてくまの傘二倍ありて

白糸糸八の西に一つとくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

くまの傘二倍ありてくまの傘二倍ありて

あはれが車 意におまをる車のいし

あはれがの山とてあしとあざと云約あ
色ニ打紙と居山おあにりし

あはれがうしとてあびと云約あをた
うら刺と居居あより二りし傘ニ
居ああをさとりん二りし

あはれがうしとてあびと云約あをた
居の立海とてあひ余あはれと
わしりこととあひ大あはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あより水種あはれ二り傘あはれ
のあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれがうしとてあびと云約あをた
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

鳥籠力鳥籠はく物もをた

ふ屋をくうの物もをた

いへおふくうの物もをた

精と 神儀に他を祈るべ

賜と 火七白塔

お茶ニ 基 西風とさふ

尺八ニ おえ 西風とさふ

志れ 茶のたの祈ふ三ふ

志げくと云何有款よ二ふと志げ

物付おどくふと志げ

志げくと云何有款よ二ふと志げ

下の字をいげと云ふと志げ

傘ニ 志げくと云ふと志げ

うと云くと云ふと志げ

多われが云の御と志げ

下紐 夜に祈ると志げ

糸ニ 祈ると志げ

組と云くと志げ

下糸 糸と志げ

上戸 人備はわすと志げ

下りえうと志げ

白拍子 人備と志げ

志げと 志げと志げ

親よ子因り

お茶 尺教人備おあふ

珠投 尺教あり

博ニ 傾城付くもく

志と あり八傘 西と志

志と あり八傘 西と志

志と あり八傘 西と志

志と あり八傘 西と志

志と あり八傘 西と志

志と あり八傘 西と志

志と あり八傘 西と志

日三日月の月うらら都島毎月
長月日月の月うらら都島毎月

日三日月の月の文をうらら都島毎月
見次乃月うらら二白燈目次の目とは

著る目うらら二白燈目次の目とは
ひびきれいし目うらら二白燈目

付て是等書年二此の今日
考うらら二白燈目

日時神祇ありわらうらら二
日乃うらら二白燈目

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

ひびきの代人備ありわらうらら二
ひびきの代人備ありわらうらら二

百後一而の字也

りたふ一武家武志武志武志の
内三あがりぬ又一

りあつてさくかゝる所と又あつて
けりて後教正法約かゝる所と

今一あつて一國あつてなるの字は
一つ一あつて一國あつてなる

○セ
仙人人傳ふれど山はなれどあつて
二百人の字三三のあり

群衆一日たり一様と群衆三三
つりて群衆とととととととと

とととととととととととととと
國只二名三三人名の字は裏は下

傘一雲四の内三三と群衆とととと
べ一せれとせりて群衆とととと

笑ニ升せれ七むとととととととと
水とととととととととととととと

とととととととととととととと
とととととととととととととと

○す
任吉の群 任吉もあつて傘任
吉の群とととととととととと

角群此群とととととととととと
未の松 角不ととととととととと

むらりもとととととととととと
任吉の群 任吉もあつて傘任

杖一人の杖又一る一傘一杖の杖
杖一傘の杖又一る一傘一杖の杖

杖の杖 杖の杖 杖の杖 杖の杖
とととととととととととととと

杖三とととととととととととととと
杖三とととととととととととととと

杖三とととととととととととととと
杖三とととととととととととととと

杖三とととととととととととととと
杖三とととととととととととととと

杖三とととととととととととととと
杖三とととととととととととととと

とてさうりあふあひだ

梅只二と彼のあはれ居る二の

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とてさうりあふあひだ

とりのふとくもひりねとてふ系
升色露葉子備若肥とつり月
山岳が伝ふる後水まよひのりも
かききふとひしとせぬかた
付おかりみめくもひりねのり
あつたれへまよひのれた三百可
ほつるまよひの葉まよひの葉まよ
同字なり
於麻乃実とくろ麻山抄
年ニ麻乃実字去之後の葉ハ
名けたりとれは面と字なり
酢只とくろ酢又一るべし
とひり二秋之△視一若葉の現の麻
又可き

すこととまのこれ何れかの
ぬやうふとてふとひり

相撲秋こととつりひとま
七月下旬より八月までとつり
つりひのかりふづりく

つりひのかりふづりく

とつりひのかりふづりく

とつりひのかりふづりく

○ 草木の夏名并し奇

かきふん草 五月朔日餅の上や
大い

初代草 五月三日妻か

初代草 五月三日妻か

初代草 五月三日妻か

初代草 五月三日妻か

初代草 五月三日妻か

初代草 五月三日妻か

初代草 五月三日妻か

及び其の... 樹

二葉子葉

植すく... 樹

二葉子葉

一葉子葉

二葉子葉

二葉子葉

三葉子葉

何子葉

二葉子葉

二葉子葉

三葉子葉

山折子葉

初子葉

初子葉

初子葉

初子葉

初子葉

初子葉

初子葉

初子葉

存古草 稿

拙作昔の書札をよきものばかりの今も

秋結草

交回

あけ秋結草のあけの光りあふる

あけの草

と拙作昔の書札をよきものばかりの今も

沈ん草

蓮

秋白の草とて他はあふる

秋結草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

あけの草とて他はあふる

あけの草

蓮

風草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

初見草子 蕨

花の香もほのかに匂ふ葉は又余り香固風草子

元禄四年の春未仲春吉日
酒系後之坊板行

一、此類乃佛背より愛とりの字を
せしむる古来の佛あり帝の門
より入るる戸より上戸より入
らんやと云ふものたゞはも
らんや伴物よもむすはれ難きは
も亦よ西の門より入るる戸より
入りしむるものたゞはも
るありおかりての七の乃の
三のあり一なるものたゞはも
ひとのありしむるものたゞはも
より七の乃のありしむるもの
ゆへに二の乃のありしむるもの
強きありしむるものたゞはも
らんとするもの

元禄四年の春未仲春吉日
酒系後之坊板行



